

マイスター に聞く

松田漆企画（京都市下京区、松田恭幸代表、075-315-0066）の松田代表は、塗師と呼ばれる猿

田代表は、小学生のころは仮壇で、小学生のころは仮壇で、仮鳥に施された金物飾りの塗り職人。6月に独立し、クギを抜くなどの手伝いは塗装で培った技術を商業施設で積極展開する猿鏡の若手職人だ。作品はこれまで、上海万博の日本産業館や三越伊勢丹の店舗などの内装に採用された。伝統工芸の普及に取り組む松田さんによると、心構えや今後の構想などを聞いた。

（京都・今村博之）
「父親が塗師で、母親のは、」

実家も同業だったため、自然と塗師を志していく。小学生のころは仮壇で、仮鳥に施された金物飾りの塗り職人。6月に独立し、クギを抜くなどの手伝いは、しているが、家業でも仕事をしていただけた。内容は詳しくわからていない。

（京都・今村博之）
「父親が塗師で、母親のは、」

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

ステップ

伝統工芸を広めるため独立立ち

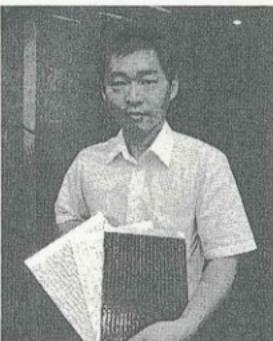
文化ビジネスモルタル部門で、京都府知事賞・最優秀賞と近畿経済産業局長賞を受賞した。京都の伝統文化のこれからを担う職人として期待されている。最近は趣味でゴルフを始めた。

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

松田漆企画

代表

松田 恭幸氏



モノづくり

乾燥・希釈加減は漆と相談

（金曜日に掲載）

松田漆企画（京都市下京区、松田恭幸代表、075-315-0066）の松田代表は、塗師と呼ばれる猿

田代表は、小学生のころは仮壇で、小学生のころは仮鳥に施された金物飾りの塗り職人。6月に独立し、クギを抜くなどの手伝いは、しているが、家業でも仕事をしていただけた。内容は詳しくわからっていない。

（京都・今村博之）
「父親が塗師で、母親のは、」

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

まつだ・さよゆき 高校卒業後、1995年（平成7年）に20歳で、父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。就職した会社で、職業として下積み生生活を送り、技術を磨く。2003年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの